

# 安全データシート

SDS No. 5010-23501

作成日 2014年 9月30日

改訂日 2019年 2月14日 1/4頁

## 1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : InertSep mini AERO DNPB-HR 300mg、20本入  
提供者 : ジーエルサイエンス株式会社  
住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F  
電話番号 : 03-5323-6611  
FAX番号 : 03-5323-6622  
製品コード : 5010-23501、5010-  
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)  
整理番号(SDS No.) : 5010-23501  
推奨用途及び使用上の制限 : 試験・研究用

## 2 危険有害性の要約

本製品はInertSep mini AERO DNPB-HR 用の充填剤をポリプロピレン製のカートリッジに充填した成形品です。通常の取扱いでは充填剤が漏洩することはありませんが、情報提供の観点から、以下に充填剤の情報を記載します。

GHS分類 : 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 区分2B  
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3(気道刺激性)

### GHSラベル要素

絵表示又はピクトグラム :



注意喚起語 : 警告  
危険有害性情報 : 眼刺激  
呼吸器への刺激のおそれ

### 注意書き

[安全対策] : 粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。  
取り扱い後はよく手を洗うこと。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
[応急措置] : 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して  
いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
眼の刺激が続く場合:医師の手当てを受けること。  
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪いときは医師に連絡すること。  
[保管] : 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。  
施錠して保管すること。  
[廃棄] : 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託  
すること。

上記で記載がない危険有害性は分類できない、分類対象外または区分外。

## 3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物  
化学名(又は一般名) : InertSep mini AERO DNPB-HR

成分名	含有量	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法	安衛法	
シリカゲル(非晶質)	99.6%	SiO <sub>2</sub>	設定されていない	設定されていない	112926-00-8
2,4-ジニトロフェニルヒドラジン	0.4%	C <sub>6</sub> H <sub>2</sub> (NO <sub>2</sub> ) <sub>2</sub> NHNH <sub>2</sub>	3-478	設定されていない	119-26-6

危険有害成分 : シリカゲル(非晶質)、2,4-ジニトロフェニルヒドラジン

## 4 応急処置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
必要なら医師の診断を受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 流水および石鹼で十分に洗い、必要により医師の診断を受けること。
- 眼に入った場合 : コンタクトレンズをつけている場合は外すこと。  
こすると眼球に傷をつける恐れがあるので、直ちに清浄な流水で15分以上洗眼すること。直ちに医師の診断/手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 水でよくうがいをする。無理に吐かせないこと。  
必要により医師の診断/手当てを受けること。
- ばく露した場合 : 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯すること。
- 急性症状及び遅発性症状の  
最も重要な兆候症状 : 眼や皮膚、粘膜に接触すると刺激性がある。長期暴露により不快感、腹痛、下痢、吐気等の症状が出る恐れがある。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者は適切な保護具を着用すること。

## 5 火災時の措置

- 消火剤 : 水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
- 使ってはならない消火剤 : 棒状水
- 火災時の特有危険有害性 : 火災によって刺激性、もしくは有毒なヒューム(またはガス)を発生するおそれがある。  
消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
- 特定の消火方法 : 移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周辺を水噴霧で冷却する。消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。
- 消火を行う者の保護 : 消火活動の際は、適切な空気呼吸器と化学用保護衣を着用する。

## 6 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。  
漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。  
漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。  
作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚や眼に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。
- 環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。  
汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
- 回収、中和 : 飛散した物は、密閉できる容器に回収する。その後を多量の水を用いて洗い流す。

## 7 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

- 技術的対策 : 眼、皮膚への接触を避ける。酸性物質、酸化剤との接触を避ける。  
高温物、スパークを避け、眼及び皮膚への接触を避ける。
- 安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。  
漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵を発生させない。  
使用後は容器を密閉する。  
吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。  
取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 衛生対策 : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。  
指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。  
休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。

## 保管

- 適切な保管条件 : 直射日光を避け、5℃以下の冷蔵庫又は冷凍庫に密閉して保管する。
- 技術的対策 : 特になし
- 混触禁止物質 : 酸化剤、強酸化性物質
- 安全な容器包装材料 : ポリエチレン等(密閉できるもの)

## 8 暴露防止及び保護措置

設備対策 : 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

管理濃度 作業環境基準 : 設定されていない

許容濃度 :

	日本産業衛生学会	ACGIH TLV-TWA	OSHA PEL
シリカゲル(非晶質)	総粉塵 8mg/m <sup>3</sup> 吸入性粉塵 2mg/m <sup>3</sup> (第3種粉塵)	吸引性粒子 10mg/m <sup>3</sup> 吸入性粒子 3mg/m <sup>3</sup> (その他の粉塵)	80mg/m <sup>3</sup> /％SiO <sub>2</sub> (非晶質シリカ含有粉塵)
2,4-ジニトロフェニルヒドラジン	設定されていない	設定されていない	設定されていない

## 保護具

呼吸器用の保護具 : 粉塵マスク、自給式呼吸器、送気マスク等

手の保護具 : 保護手袋

眼の保護具 : 保護眼鏡、側板つき保護眼鏡(必要によりゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具 : 保護衣、保護長靴

適切な衛生対策 : マスク等の吸着剤の交換は定期的または使用の都度行う。  
取扱い後はよく手を洗う。

## 9 物理的及び化学的性質

形状 : 粉末  
色 : 黄色  
臭い : 無臭  
pH : データなし  
融点 : データなし  
沸点 : データなし  
引火点 : データなし  
発火点 : データなし  
爆発範囲 : データなし  
蒸気圧 : データなし  
比重 : 2.0~2.3  
溶解性 : 水に不溶  
オクタノール／水分配係数  
log Po/w : データなし  
自然発火温度 : データなし

## 10 安定性及び反応性

安定性 : 通常取り扱い及び保管条件において安定  
危険有害反応可能性 : 通常取り扱い条件において安定  
避けるべき条件 : 湿気、日光、熱、酸性化合物、混触危険物質との接触  
混触危険物質 : 強酸化剤、強酸性物、フッ化水素  
危険有害な分解成分 : 一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物

## 11 有害性情報

急性毒性(経口) : 2,4-ジニトロフェニルヒドラジンが区分4に該当するが、計算の結果125,000mg/kgで、混合物として区分外となった。

(2,4-ジニトロフェニルヒドラジン)

: ラット LD50>500mg/kg

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : データ不足のため混合物として分類できない。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

: シリカゲル、2,4-ジニトロフェニルヒドラジンともに区分2Bに該当し、混合物として区分2Bとなった。

(シリカゲル)

: ウサギを用いた眼刺激性試験(OECD TG 405)において、沈降シリカ(Sident9)を適用した結果、軽度の結膜発赤がみられたが回復性を示したとの報告がある(SIDS(2006), ECETOC JACC(2006))。また、沈降シリカをウサギに適用した試験の報告が複数あり、眼刺激性はみられなかったとの報告や、軽度の結膜刺激がみられたが回復したとの報告がある(SIDS, 2006)。

(2,4-ジニトロフェニルヒドラジン)

: ウサギ 500mg/24H MLD

感作性 : データ不足のため混合物として分類できない。

生殖細胞変異原性 : データ不足のため混合物として分類できない。

発がん性 : データ不足のため混合物として分類できない。

生殖毒性 : データ不足のため混合物として分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

: シリカゲルが区分3(気道刺激性)に該当し、その濃度が20%以上であることから混合物として区分3(気道刺激性)となった。

(シリカゲル)

: シリカゲル(Syloid 244)は気道刺激性があるとの報告がある(SIDS(2006), ECETOC JACC(2006))。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

: データ不足のため混合物として分類できない。

吸引性呼吸器有害性 : データ不足のため混合物として分類できない。

## 1 2 環境影響情報

水生環境有害性(急性) : データ不足のため混合物として分類できない。

水生環境有害性(長期間) : データ不足のため混合物として分類できない。

残留性/分解性 : データなし

生態蓄積性 : データなし

土壌中の移動性 : データなし

オゾン層への有害性 : 本製品に含まれる物質は、モントリオール議定書に列記されていないため、オゾン層破壊物質に該当しない。

## 1 3 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。  
都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

## 1 4 輸送上の注意

国連分類 : 非該当

海洋汚染物質 : 非該当

注意事項 : 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。  
転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

## 1 5 適用法令

毒物及び劇物取締法 : 非該当

労働安全衛生法 : 非該当

化管法 : 非該当

化審法 : 既存物質

消防法 : 非該当

船舶安全法(危規則) : 非該当

航空法 : 非該当

海洋汚染防止法 : 非該当

大気汚染防止法 : 非該当

水質汚濁防止法 : 非該当

土壌汚染対策法 : 非該当

## 1 6 その他の情報

引用文献等

化学品安全管理データブック 化学工業日報社

独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)

安全衛生情報センター

16918の化学商品(2018) 化学工業日報社 他

## 記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。